

## 第1回長期計画策定会議及び小委員会における主な意見

21.5.12

第1回策定会議における主な意見	
1	指標を設定した後、計画を遂行していくためにも、評価の仕組みを運用することが重要になる。
2	指標が未達成のものから学ぶ部分も多い。定量的指標にこだわらず、定性的指標も必要だと考える。まちづくりは、反省・修正を繰り返した結果として良いまちづくりができる。
3	指標の数が多くなるのは、多様な分野の施策を推進していく上でやむを得ない面があるが、区民が見たときに分かりやすくするための工夫は必要である。
4	数値目標だけでは測れない重要な部分について、表記する工夫が必要だと思う。
5	主観的に判定する指標(「子育てしやすいまちだと思ふ保護者の割合」など)は、区に対する期待値が高ければ高いほど低くなる。数字が出てしまうと一人歩きしてしまうので、なぜそうなったのかという部分も定性的に示していければいい。
6	施策の中に「みんなでつくる」という視点を入れて、それに対してどう評価するかということも考えてみたいと思う。
7	長期計画を区民みんなでつくる、責任を負うという部分が重要なのだと思う。今回の計画策定では、どのような手法でまちづくりを目指すのかが問われている。
8	成果指標は今回の計画の柱であり、否応なく21世紀型の計画のあり方について議論することになる。「図書館の資料貸出数」などは、20世紀型の指標で、今後は質が問われる時代であり、成果指標の作り方も難しい。

第1回小委員会における主な意見	
1	指標を設定すると、数値が一人歩きする恐れがあるため、デメリットを十分認識する必要がある。
2	経年変化を示していくことから、指標の数値の取得方法は十分に検討する必要がある。